

# 資料 7

## 平成 30 年度 野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業 目標管理シート

### 1 目標（何をを目指すのか。）

#### 【通年】

大阪市と事業者が協働により事業を進めていくことによって、貴重な都市資源である野鳥園臨港緑地の湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供する。

### 2 使命（どのような役割を担うのか。）

#### 【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供する。

### 3 平成 30 年度 運営の基本的な考え方（方針）

#### (1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全・再生するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、湿地再生プロジェクトチームでの議論も踏まえ、順応的な管理を実施する。

- ① 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善
- ② 市民参加によるカキ礁の手入れや休み場づくりなどの湿地保全作業の実施

#### (2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

環境学習会を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての湿地の大切さを理解、共感してもらう。

- ① 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成
- ② 広報活動の充実

※野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地と表現する。

※本文中で野鳥園臨港緑地は野鳥園と省略して表現する。

4 重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～

計画	将来像	<p>1. シギ・チドリ類の種数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春（3～5月）：シギ・チドリ類の渡来種数 22種</li> <li>・秋（8～10月）：シギ・チドリ類の渡来種数 24種</li> </ul> <p>湿地の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。</p> <p>※シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</p> <p>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数：60種</p> <p>湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</p> <p>3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質。</p>
	現状 (課題設定の根拠となる現状)	<p>野鳥園は開園（1983年9月）以後、湿地の保全・再生と順応的管理を継続して実施しており、現在も多くの種類のシギ・チドリが渡来するなど、生息環境が減少または悪化する中、渡り鳥の大切な中継地となっているが、国内の他の湿地同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。</p>
	要因分析	<p>1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化</p> <p>2. 野鳥園の湿地の現状</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 表層の有機物堆積層の流出</li> <li>2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少（北池）</li> <li>3) 一部の砂質化</li> <li>4) 表層のバイオフィルムの減少</li> <li>5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大（地盤は年間に平均1センチ低下）など</li> </ol>
	手法 (上記要因を解消するために必要なこと)	<p>有機物が堆積しやすく多様な餌生物が多く生息し、多くの渡り鳥が飛来して、安心して採食でき休息できる環境づくりを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり【継続】</b> 北池に拡大するカキ礁の手入れ（移動）作業の実施。広がっているカキ礁を浅い部分に移動させ干潟の餌場の拡大を図るとともに、積み重ねて鳥の休み場などとして活用する。【校園や市民ボランティアに呼びかけ】</li> <li>2. <b>緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善【継続】</b> 干潟内への落ち葉投入（野鳥園の緑地部分で採取したものを活用）については、水質や底質の調査等を継続して実施するなど経過観察しつつ、効果の取りまとめを行う。また、新たに北池の干潟の砂質化について現況調査を実施し、砂質化の抑制・底層生態系の創出を図る。</li> <li>3. <b>塩分の測定【継続】</b> 塩分濃度と干潟に生息する生物との関係を調査し、今後の対策の参考とするため、塩分測定を継続して実施し湿地環境のモニタリングを行う。</li> </ol>

重点的に取り組む課題 ー (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成 年 月 日）			年度報告（報告日：平成 年 月 日）					
取組事項			取組事項					
数値目標	計画			実績		振返り		
	項目	最終目標	H30 年度目標	中間実績	H30 年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	H29 年度実績
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26 回	26 回					23 回
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施					実施
	環境省（モニタリングサイト 1000）への情報提供	実施	実施					実施
シギ・チドリ類の渡来種数	春（3 月～5 月）	22 種	22 種					22 種
	秋（8 月～10 月）	24 種	27 種					27 種
湿地再生 PT	湿地再生 PT の開催回数（資料整理や調査含む）	2 回	2 回					0 回
底生生物調査	底生生物調査回数	2 回	4 回					4 回
	塩分の測定回数	3 回	3 回					3 回
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3 回	3 回					2 回
	ボランティア参加人数	400 人	400 人					210 人
湿地の手入れ	ヨシ刈り、休み場づくり等の実施回数	5 回	5 回					9 回
	カキ礁の手入れ作業の実施	実施	実施					実施

中間評価（評価日：平成 年 月 日）		年度評価（評価日：平成 年 月 日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
自己評価 （課題と改善策）		自己評価 （課題と改善策）	
委員評価		委員評価	

4 重点的に取り組む課題 – (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画し、実施する。</li> <li>2. 専門的知識を有する多数の人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。</li> </ol>
	現状（課題設定の根拠となる現状）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度実施した観察会は、参加者は増加したものの、アンケートでは、平均して約2割～3割の参加者が「やや不満」「普通」と回答している。</li> <li>2. 学校との連携については現在港区にある築港中学校・市岡高校等と連携している。</li> </ol>
	要因分析	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習会の満足度が当日の自然環境（野鳥の飛来状況・カニの出現数等）に左右されやすい。</li> <li>2. トータルコーディネイターや野鳥ガイド等の専門的知識を有する人材が不足しており、一人一人の負担が大きい。</li> <li>3. 区役所や学校との連携が十分できていない。</li> </ol>
	手法 （上記要因を解消するために必要なこと）	<p>環境学習について、参加者がより観察会を楽しめるように環境学習会の内容充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>環境学習の手法の改善についての検討【継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、カキ礁移動作業及び移動箇所生き物調査を行い、環境保全体験と生き物の学習を総合的に実施する。また、新たにカキ礁に集まる魚類調査も実施する。池のカキ礁移動について、近隣の学校や市民と協働して、継続した取り組みが必要である。また、カキ礁に集まる魚類調査も行いたい。</li> <li>・アカテガニ観察会の観察に有効な場所や開催時期・時間の精査を行い、参加者がより身近に観察できるよう工夫・検討する。</li> </ul> </li> <li>2. <b>野鳥ガイドの充実【継続】</b> <p>野鳥ガイドの増員を図るとともに、全ガイドを対象にフォローアップ研修を適宜実施し、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。</p> </li> <li>3. <b>学校への環境学習の利用促進【継続】</b> <p>地元住之江区等の近隣の学校や市民に、環境学習の場として野鳥園を利用してもらうように引き続きPRに努める。</p> </li> <li>4. <b>トータルコーディネイターの育成【継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーター→サポーター→野鳥・湿地ガイド→トータルコーディネイターと段階的に人材育成できるよう、リピーター確保の取り組みを継続して実施していく。</li> <li>・また、トータルコーディネイターは年間の事業全体を通して適正な湿地保全と魅力ある環境学習会の企画立案及び広報の充実に取り組み、他湿地管理団体と継続して交流することによって視野を広げスキルアップを図り、他都市での取り組み事例などから野鳥園臨港緑地独自の取り組みについて検討を進めていく。</li> </ul> </li> </ol>

重点的に取り組む課題 - (2) 魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

中間報告（報告日：平成 年 月 日）				年度報告（報告日：平成 年 月 日）				
取組事項	計画			実績		振り返り		
	点検項目	最終目標	H30 年度目標	中間実績	H30 年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	H29 年度実績
野鳥ガイド	実施回数	40 回	40 回					36 回
野鳥の会探鳥会	実施回数	12 回	12 回					12 回
野鳥ガイド	登録人数	40 人	40 人					25 人
	一人で解説できる野鳥ガイドの人数	25 人	25 人					17 人
環境学習会	単発観察会実施回数	6 回	9 回					9 回
	環境学習会初参加者数	30 人	100 人					93 人
	各環境学習会の定員充足率	平均 100%	平均 100%					平均 98%
学校を対象とした環境学習会	学校を対象とした環境学習会の実施回数	2 回	3 回					3 回

具体的取組	計画			実績		振り返り		
	点検項目	最終目標	H30 年度目標	中間実績	H30 年度実績	最終目標比 較増△減	年度目標比 較増△減	H29 年度実績
地元との連携	住之江区内の学校が環境学習会に参加	実施	実施					実績なし
人材育成	トータルコーディネイターの人材育成	5 人	5 人					4 人
他干潟保全団体との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換回数	3 回	3 回					3 回
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施回数	2 回	2 回					0 回
リピーター確保の取り組み	野鳥園だよりの配布回数	4 回	4 回					4 回
	希望者へ環境学習会の案内	実施	実施					実施
	野鳥園サポーター制度(仮称)導入に向けた検討	実施	実施					検討
中間評価 (評価日:平成 年 月 日)			年度評価 (評価日:平成 年 月 日)					
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込		総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成				
自己評価 (課題と改善策)			自己評価 (課題と改善策)					
委員評価			委員評価					

4 重点的に取り組む課題 – (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。</li> <li>2. 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民に認識してもらうことで、自然環境への理解を深めてもらう。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民の認知度が低いと考えられる。</li> <li>2. 府下では年間で最も多くの野鳥(約130～150種)が見られること、特に湿地では年間90種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。</li> <li>3. 広報活動の改善により環境学習会の定員充足率は増加している。</li> </ol>
	要因分析	市民への広報充実は一定進んでいるが、さらに工夫・改善が必要
	手法(上記要因を解消するために必要なこと)	<p>効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民に対し野鳥園で実施している環境学習会などの情報を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>効果的な情報発信の実施【継続】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区広報紙や新聞への掲載について、効果的な広報媒体として引き続き活用していく。</li> <li>・ ホームページや、ブログやスタッフ個人による facebook 等の SNS を活用し、工夫・改善を図りながら情報発信を行う。</li> <li>・ 新たに展望塔に設置する野鳥解説の下敷きの作成を行うなど、掲示物等の充実を図る。</li> <li>・ 年間4回、季節に応じて野鳥ガイド日、観察会の案内を掲載する「野鳥園だより」を継続して発行し、野鳥ガイドから来園者に手渡しで配布するほか、環境学習会参加者の希望者にイベントの案内を適宜実施する。</li> </ul> </li> <li>2. <b>今期事業の総括と貴重な環境資源のPR</b> <p>現行の事業委託の最終年度となることから、港湾局・建設局・NPO法人ウェットランドグループの3者で事業の総括を行い、将来の野鳥園干潟・湿地の環境保全に繋げるとともにホームページなどで発信する。また、今期事業の活動内容や野鳥の飛来状況、底生生物やアカテガニ・ハクセンシオマネキ等、貴重な環境資源をPRするため、一般市民を対象に環境学習会(観察会と同時開催)を企画・実施する。</p> </li> </ol>

重点的に取り組む課題 — (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

中間報告（報告日：平成 年 月 日）			年度報告（報告日：平成 年 月 日）					
取組事項			取組事項					
具体的取組	計画			実績		振返り		
	点検項目	最終目標	平成 30 年度目標	中間実績	平成 30 年度実績	最終目標比較増△減	年度目標比較増△減	平成 29 年度実績
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	実施					実施
	各イベント案内	実施	実施					実施
さまざまな広報媒体の活用	大阪市 HP への掲載回数	2 回	4 回					4 回
	区役所へのイベントチラシ配備（回数）	実施	4 回					3 回
	区広報紙への記事掲載回数（特集記事含む）	1 回	4 回					5 回
	新聞への記事掲載回数	2 回	4 回					5 回
	ブログにより情報発信	実施	実施					実施
展望塔内の展示スペースの活用	展示スペースの更新回数	4 回	4 回					3 回
	野鳥写真の掲示回数	3 回	3 回					3 回
	野鳥ガイド時のアンケート	実施	実施					実施
	下敷きの作成	実施	実施					企画中

中間評価（評価日：平成 年 月 日）		年度評価（評価日：平成 年 月 日）	
総合評価	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	総合評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
自己評価 （課題と改善策）		自己評価 （課題と改善策）	
委員評価		委員評価	